

人手不足対策シンポ

東商中央支部3社が事例紹介

東京商工会議所中央支部は都内で「人手不足対策シンポジウム」を開いた（写真）。人手不足が深刻化する

中、外国人材活用、女性活躍、シニア活用の三つの方策で成果を上げていく中小企業3社が事例を紹介した。同支部の会員企業約70人が経営に役立てようと熱心に聴講した。



ネジ・精密機械部品などを手がける佐竹製作所（東京都千代田区）は、山形工場でタイやベトナムなど外国人材を約4割強採用。尾方謙一社長は「外国人材は不満がなくても残業が少な

いと転職する。流動化しても募集しやすく応募者が来る会社になることが大事」と述べた。

ワカルク（同中央区）の石川沙綾子最高経営責任者（CEO）は女性活用について、セキユリテール機器開発・製造・保守の松村エン지니어リング（同台東区）の松村聖津子常務はシニア活用の事例を披露した。来場者から「苦勞した点は「面談の内容は」など質問が相次ぎ、関心の高さがうかがわれた。